

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	悪性腫瘍患者の精子凍結に関する臨床的検討		
2. 対象患者	以下の期間において当院で、妊孕性温存のため精子凍結を行った悪性腫瘍に罹患した男性患者様（約170名）		
3. 対象となる期間	1997年 1月 1日 ～ 2021年 3月 31日		
4. 実施診療科等	産科婦人科		
5. 研究責任者	氏名	福原 理恵	所属 産科婦人科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任)	福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター（教授 高橋俊文）		
7. 研究の意義	近年、悪性腫瘍に対する治療方法の進歩によって悪性腫瘍患者様の生存率が向上しています。一方で、手術、放射線治療、化学療法などの悪性腫瘍治療は男性および女性において、精巣や卵巣に障害を残すことが知られています。青年期以降の男性の悪性腫瘍患者様では、精子凍結保存が妊孕性温存のため行われています。しかしながら、凍結精子の利用実態など長期的な調査を行った報告はほとんどありません。妊孕性温存希望の男性悪性腫瘍患者様に対する精子凍結の診療実態を明らかにすることは、精子凍結保存前のカウンセリング等の際に有益な情報となりえます。		
8. 研究の目的	妊孕性温存希望の男性悪性腫瘍患者様に対する精子凍結について、診療の実態を明らかにすること		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	本研究は対象者のカルテ情報から、以下の情報を抽出します：精子凍結保存時の年月日、年齢、結婚の有無、原疾患名、化学療法の有無、精液検査所見（精液量、精子数、運動率）、凍結精子の使用の有無、妊娠成立の有無、観察機関中における生存の有無。これらの情報について診療実態を統計的手法で検討します。さらに、凍結精子の使用の有無について累積使用率を検討します。なお、本研究は東北地方の6大学で形成する東北生殖医療研究会による多施設共同研究として実施する予定です。また研究責任者へデータを提供するにはパスワードロックされたファイルをDVDへ入れて送付いたします。		
10. 個人情報の保護	データは匿名化（氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与）され、関係者以外アクセスできないパソコン中に保管・管理されます。また、対応表に関しましても同様に別のパソコン中に保管・管理されます。 研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。 対象者の方より拒否の申し出があった場合は研究対象から除外しデータを削除致します。 ただし、研究結果公表後は公表済みのデータを修正することは出来ませんの		
11. 利益相反に関する状況	特にございませ		
12. 連絡先	産科婦人科 講師 福原 理恵		
	電話	0172-39-5107	FAX 0172-37-6842